

子宮頸癌とワクチンについて

子宮頸癌は年間約1万人以上が発症し、3,000人が亡くなっています。20代30代でも増加してきており、命を落とさなくても、子どもを産んでいない若年女性が子宮を摘出せざるを得なくなりません。

Q なぜ子宮頸癌になるのでしょうか？

子宮頸癌の発生の大多数は、ヒトパピローマウイルス(HPV・Human Papillomavirus)の感染によって起こります。HPVはありふれたウイルスで、性行為経験のある女性の半分以上が一

生に一度は感染しますが、ほとんどは自然に消えてしまいます。しかしまれに持続感染することがあり、そのために子宮頸癌となります。

Q 子宮頸癌は予防できるのでしょうか？

子宮頸癌ワクチンの接種により予防できます。ワクチンの有効性は90%以上といわれています。しかしウイルスの関与らない子宮頸癌も数%あり、ワクチンだけでは完全ではありません。併せて子宮頸癌検診を受診することによって、癌になる前ある

いは初期の癌(上皮内癌)で見られれば、子宮摘出にはいたりません。

Q ワクチン接種しても大丈夫でしょうか？副反応は？

2013年4月、小学6年(高校1年の女子に無料の定期接種が開始されました。ところがワクチン接種後の全身の痛みや運動障害など多様な症状が大きく報道されました。それによりせっかく定期接種となったワクチン接種も取りやめとなり、厚生労働省も積極的な接種は推奨しないということになりました。

あれから7年いろいろな研究がなされました。副反応といわれる多様な症状は、注射をするこにより起こる一過性の反応や、思春期の多感な女性が、注射することによる痛みや恐怖感から起こるストレス反応であり、テレビで報道されたような重篤な症状はワクチンをうたない女子にも発症し、自然発生率とも差がないことがわかってきました。

Q 日本以外の国はどうかでしょうか？

HPVワクチンは世界130カ国以上で販売されています。アメリカ、イギリス、オーストラリアなど先進国はもちろん、ルワンダ、ブータンなど開発途上国でも先進国の援助で接種が進んでおり、接種率は60~90%です。

そして結果も始めています。オーストラリアでは2028年までに子宮頸癌は希少癌(まれな癌)となり、2066年にはほぼ子宮頸癌がなくなる最初の

国になりそうだとのことです。日本は現在1%以下です。このままでは子宮頸癌になるのは日本人だけということになってしまいます。

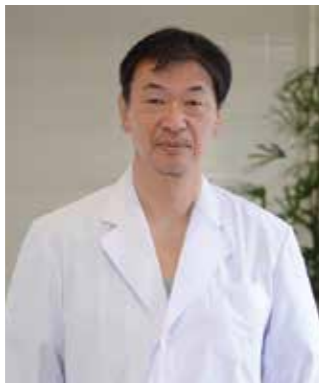
かくいう自分も2013年当時、娘が小学6年生でしたが、副反応が気になってワクチン接種は様子見だなどと思い接種を控えていましたが、いろいろ判るにつれやはりワクチンは接種すべきだと思い、娘に勧めました。

現在も、厚生労働省は積極的な推奨はしていませんが、接種する場合は小学6年生(高校1年生までは公費負担があります(自治体により対象年齢に違いがあります)。ワクチンは保険がきかないのでその期間を過ぎると自費となります。数ヶ月開けて3回の接種が必要となり、3回で5万円前後かかります。娘もこの期間が過ぎてからの接種だったので、妻から「注射高いのになんでもっと早く言わんの。」と怒られました。このような事にならないように接種を希望される方はお早めに:

日本産婦人科学会、小児科学

会 WHOも予防接種を推奨しています。不幸な未来とならないよう是非ワクチン接種をしてください。併せて子宮頸癌検診も受けましょう。

今月の先生



岐阜市民病院 産婦人科
豊木 廣 先生

- 専門分野
婦人科悪性腫瘍手術
- 役職
産婦人科部長
婦人科腫瘍部長
- 主な資格、認定
日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医